

ご あ い さ つ

愛知県高等学校視聴覚教育研究協会会長
愛知県立中川商業高等学校長
佐藤 高弘

会員校の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、平素から本研究協議会の活動に格別のご支援とご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

私は、1年前の総会において前任の富田裕司会長の後を受け、本会の会長に就任いたしました。早いもので1年が過ぎましたが、会員校の皆様のおかげをもちまして、本会の運営を無事成し遂げることができました。大変ありがとうございました。

さて、平成30年3月末に高等学校学習指導要領の改正が告示されました。基本的な考え方として、「社会に開かれた教育課程」、「知識の理解の質の向上と確かな学力の育成」、「高大接続改革」が示されました。総則においては、「言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力」の育成を図るために、「教科等横断的な視点から教育課程の編成を図る」、「各学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を活用するために必要な環境を整え、これらを適切に活用した学習活動の充実を図ること」と規定され、ICT活用教育の重要性が叫ばれています。

教育現場においては、ICTを活用することにより、「関心・意欲・態度」の観点において効果が認められており、生徒が集中し興味を持って前向きに学習に取り組むことができるようになること等にも効果があると認められています。新学習指導要領で求められている「主体的・対話的で深い学び」に繋がるものであるといえます。今後、学校における教育の情報化の果たす役割は重要であり、そのことをしっかりと認識し教育実践を重ねていくことが求められています。

今年度も、6月にNHK杯全国放送コンテスト愛知県大会、1月には愛知県高校放送コンテストジュニア大会が行われました。全国大会に繋がる大会とあって、生徒たちの熱い思いと本番に挑む姿に感動しました。同時に、その陰には労を惜しまず指導に情熱を傾けられている先生方の存在があればこそということを実感することができました。

この「視聴覚のあゆみ」は、平成30年度の本研究協議会の活動をまとめたものです。全県を対象とした講習会、県内の5地区で実施した地区研究会での成果発表などを掲載しています。視聴覚機器や放送番組をうまく取り入れながら、魅力ある授業や教育活動を実現していくために、この「視聴覚のあゆみ」がその一助となれば幸いです。

最後に、本研究活動を企画し運営された皆様、また「視聴覚のあゆみ」第55号の制作にご協力いただいた皆様をはじめ、多くの関係の皆様を重ねて感謝申し上げます、ごあいさついたします。